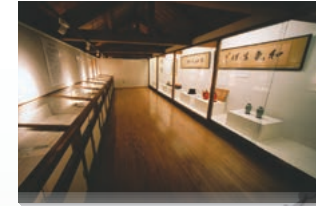
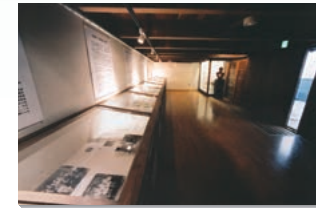


河井弥八記念館

蔵を利用した小さな記念館



ご案内

この施設は、南郷地域生涯学習センター内の「河井弥八記念館運営委員会」が運営する記念館です。

開館日 土曜日・日曜日
年末年始(12月25日より1月5日までは休館)

開館時間 10:00～15:00

入館料 無料

交通

鉄道利用の場合

- JR東海道線掛川駅下車 徒歩10分
- 東海道新幹線掛川駅下車 徒歩10分

車利用の場合

- 国道1号線 掛川警察署 又は 掛川生涯学習センターより7分
- 東名高速道路 掛川I.Cより5分



河井弥八記念館

(掛川市南郷地域生涯学習センター内)

〒436-0022 掛川市上張192-1
電話・FAX 0537-23-0324
Eメール nangou@pub.kakegawa-net.jp
HP 河井弥八記念館

家族・兄弟



<東京帝国大学時代>



<結婚間もない頃>



<家族写真(三男三女に恵まれる)>



<兄弟>

宮中・国政・郷土に尽くした人

河井家

河井家は度々の火災にあって、文政4年掛川宿塩町から移住してきた。その後は上張村の庄屋などを務めた。

弥八の父重蔵は、明治維新後に戸長、村議、郡会議員、県議を務めた後、衆議院議員3期の国政にも参与した。

地元の尋常小学校の建設、掛川銀行の創設、東海道線敷設の際は、近隣町村の有志の中心となって請願し、掛川に鉄道を通す働きかけをした。

弥八は官界に入り、人柄と能力を買われて宮内省入りし、侍従次長兼皇后大夫となり天皇皇后を側面から支えた。その後、政界に転じ貴族院、参議院議員を務め議長にもなった。地元においては、22年余を務めた大日本報徳社正副社長時代には、終戦前後の食糧不足を懸念して、甘藷・麦作の増産を県・国に働きかけ、大日本報徳社の専任講師40名を全国に派遣し甘藷の多収穫栽培法を普及させた。

河井弥八略歴

和 暦(年齢)	事 柄
明治10(0)	河井重蔵の長男として誕生
明治37(27)	東京帝国大学政治学科を卒業
大正 8(42)	貴族院書記官長
大正15(49)	内務大臣秘書官長 東宮職御用掛
昭和 2(50)	侍従次長兼皇后大夫
昭和13(61)	貴族院議員に勅選 大日本報徳社副社長
昭和16(64)	甘藷・麦の増産運動を推進
昭和20(68)	大日本報徳社第5代社長
昭和22(70)	第1回参議院議員選挙に当選
昭和25(73)	参議院議員、2回目当選
昭和28(76)	参議院議長に就任
昭和31(79)	参議院議長を辞任 文化財保護委員長 全国治水砂防協会副会長
昭和35(83)	逝去 従二位、勲一等旭日桐花大綬章 法名「徳翁彌天居士」

宮中時代



<大礼服姿の弥八>



<儀式用帽子>

「東宮職御用掛」「侍従次長兼皇后大夫」を7年間務めた。



御紋附銀製花器

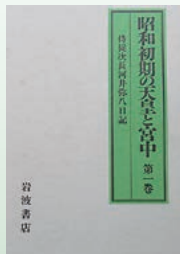


御紋附蒔絵手箱
昭和天皇、皇后、皇太后下賜品

価値の高い日記

明治35年から昭和35年に亘る（一部欠落）日記は、弥八の活動の全貌が分かる貴重な資料。

侍従次長時代の皇室を取り巻く軍や政治の動き、又、終戦前後の部分は、政治学、憲法学、議会史の空白を埋める学術的にも価値の高い内容が含まれている。



『昭和初期の天皇と宮中
侍従次長河井弥八日記』
全6巻 岩波書店

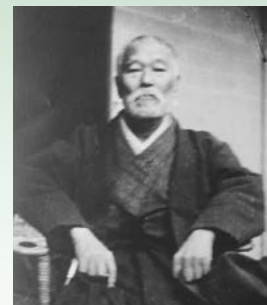


『河井弥八日記戦後篇』
全5巻 信山社

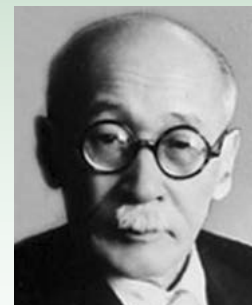


『長河井弥八日記』
静岡県立大学
ワーキングペーパーとして
1940,1941,1950年の3年分刊行

国政で活躍した親子二代



父・河井重蔵(衆議院)



弥八(貴族院・参議院)

報徳社時代



<甘藷増産競産会>

終戦前後の時期、食糧不足を危惧し、丸山方作氏の協力を得て、専門講師40名を全国に派遣し、甘藷の多収穫栽培法を普及させた。



<大日本報徳社に高松宮殿下を迎えて>

活山活水に懸ける

全国治水砂防協会副会長として、災害発生時には、いつも脚絆姿の軽装で現地の視察に赴いた。

